

(参考資料)

平成17年度 医療安全に関するコスト調査

－ 調査結果報告（抜粋） －

目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 調査の内容.....	2
3. 取り組みの状況.....	7
4. 調査結果の考察と今後の課題.....	13

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

医療安全に係る診療報酬として、入院基本料に対する1) 入院診療計画未実施減算、2) 院内感染防止対策未実施減算、3) 医療安全管理体制未整備減算—など、既に施設基準が定められ、点数化されているものがある。

一方、医療安全の向上のために1) 安全に関する管理体制の充実、2) 医薬品の安全確保、3) 医療機器の安全確保、4) 医療安全における情報技術 (IT) の活用、5) 医療従事者の資質向上—といった項目への取り組みの強化が求められており、本調査は、医療安全に関するコストの実態を把握し、診療報酬体系における評価の在り方について検討するための資料を作成するとともに、今後の医療安全への取り組み方を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

平成17年度においては、医療安全に関して先進的な取り組みを行っている医療機関等を対象に、医療安全を保証・改善させるための活動状況等を明らかにすることを目的とする。さらに、平成17年度調査の結果を踏まえ、医療安全に係るコスト範囲等を確定し、平成18年度にはより幅広い医療機関等を対象として、医療安全に関するコスト調査を実施するものとする。

(2) 調査の対象

- 病院、一般診療所、歯科診療所及び保険薬局を調査対象とした。
- 調査対象の選定に当たっては、病院のうち下掲の厚生労働科学研究の調査対象としていない規模の病院 (300 床未満)、一般診療所 (有床)、一般診療所 (無床)、歯科診療所及び保険薬局を対象として書面調査、ヒアリング調査を行った。
※300 床以上の病院 10 施設程度については、厚生労働科学研究「医療における安全・質確保のための必要資源の研究」(主任研究者 今中雄一・京都大学教授) から調査結果を提供していただいた。

(3) 調査の実施体制

- シンクタンクへの委託調査とし、当該シンクタンク内に今中雄一・京都大学教授を主任研究者とする検討委員会を設けて調査を行った。

主 査：今中 雄一 京都大学大学院医学研究科／教授

委 員：(五十音順)

井上 章治	有限会社井上調剤薬局／代表取締役 (日本薬剤師会)
猪口 雄二	医療法人財団寿康会病院／理事長・院長 (全日本病院協会)
高津 茂樹	高津歯科医院／院長 (日本歯科医師会)
土屋 文人	東京医科歯科大学歯学部附属病院／薬剤部長 (日本病院薬剤師会)
松田 晋也	産業医科大学医学部公衆衛生学教室／教授
安田 正幸	安田クリニック／院長 (日本医師会)

2. 調査の内容

本調査では、1) 安全管理、2) 感染制御、3) 医薬品安全使用—についての取り組み状況を把握し、取り組みに係るコストを分析する。また、医療安全対策の効果を計測するための指標（クリニカルインディケーター等）については、現在、国を中心として各種の研究が進められていることから、文献数の動向を調査した。（附録2を参照）

本調査は、平成16年度（2004年度）における状況を対象としているが、病床数、患者数、職員数など一時点の状況については、平成16年6月30日現在の状況とした。

（1）病院の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた委員会・会合	安全管理委員会、医療ガス安全委員会、院内感染対策委員会、感染制御委員会、事故調査委員会、診療記録管理委員会、薬事委員会、輸血療法委員会、褥瘡対策委員会
	2	内部レビュー・ラウンド等の取り組み	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内部レビュー・ラウンド、症例検討会に相当する取り組み事例	マニュアル遵守の内部レビュー、感染予防のための症例検討会、化学療法や輸血・血液療法に関する検討会、抗生剤使用に関する検討会、診療録レビュー
	3	医療安全に係る院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院内研修	感染管理基礎研修、感染対策講演会、事故事例研究会、MR合同研修会、新入職員研修、医療ガス取扱教育、機器使用デモンストレーション、救急対応看護技術研修、医療機器安全講習会
	4	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	リスクマネジメント研修、感染管理講習会、感染防止セミナー、医療安全管理者養成課程講習会、褥瘡研究会、静脈注射に関する研修、新人看護師研修、除細動機講習会、
設備コスト	5	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	リストバンド、看護支援携帯端末、警報装置、転落防止器具、衝撃吸収床材、全自動錠剤分包機、オーダーエントリーシステム、X線防護衣、AED（自動体外式除細動器）
	6	感染制御に係る機器・設備等	感染を予防するための器材、機器、設備等	消毒・洗浄剤、ハンドローション、グローブ、マスク、ガウン、手洗い機器、針刺し防止用注射器、抗菌床材、陰圧隔離室、ガス滅菌機、超音波洗浄器、オートクレーブ
	7	医療機器等の管理等の取り組み	臨床工学技士の活動状況（人数、活動内容の割合等）、医療機器の安全管理に係る活動や設備利用の状況	活動：院内巡回、酸素ボンベ点検、CT・MRI点検、X線テレビ装置定期保守点検 設備：輸液ポンプ、シリンジポンプ、滅菌ラベル人工呼吸器等の解析装置
	8	医薬品等の管理等の取り組み	薬剤師の活動状況（人数、活動内容の割合）、医薬品・血液製剤の管理に係る活動や設備利用の状況	活動：特定生物由来製品または麻薬・劇薬等に係る保管・管理活動、レジメンチェック、抗生物質の使用状況調査と感染起因菌の分析、医薬品使用期限の確認、救急薬更新 設備：分包機、クリーンルーム、クリーンベンチ、血液製剤の保冷库・冷凍庫・溶解用恒温槽

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
	9	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル
その他	10	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	11	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	感染対策マニュアル、輸血マニュアル、褥瘡マニュアル、医療事故防止マニュアル、事故防止チェックリスト、廃棄物適正処理マニュアル、緊急コールマニュアル、医療機器異常時対応マニュアル、薬剤保管管理マニュアル
	12	外部評価の受審状況	受審した、医療安全・感染制御・医薬品安全使用に関する外部評価	ISO9001、ISO14001、医療機能評価機構
	13	院内感染サーベイランス等の取り組み	院内で実施した院内感染サーベイランスと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	MRSA・緑膿菌・結核・疥癬、手術部位感染、術後創感染チェック、尿路留置カテーテル関連尿路感染、中心静脈ライン関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎
	14	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	インフルエンザワクチン、HB ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	15	賠償責任保険への加入状況	病院（診療所）、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、医師賠償責任保険（医師会・民間損保）
人員配置状況・活動状況	16	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理室長、リスクマネージャー、安全管理室員、安全管理推進室員
	17	感染制御に係る人員配置	感染管理室など、感染制御部門に所属する構成員または感染制御に関する担当者	感染管理室長、感染管理室員、リンクナース
	18	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	①患者誤認防止、医薬品等の誤認防止、調剤の確認、手術部位誤認防止、アレルギー確認、輸血払い出し確認 ②手術、輸血・血液製剤投与、造影剤使用、心臓カテーテル、内視鏡手術、点滴、採血、麻薬投与、処方薬を渡す際など
	19	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携（病病連携・病診連携・薬薬連携等）	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、訪問看護ステーションとの意見交換、転院サマリー、退院時看護サマリー、持参薬鑑定
	20	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1～19の分類に該当しないもの	警備体制の強化、配管の点検、医療用ガスボンベの点検、避難訓練、隔離待合室の設置、防犯システム導入
	21	基本情報	患者、職員、収支などの状況	病床数、患者数、処方の状況、職員数、医業収支

(2) 一般診療所の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象(取り組み・機器)の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合、内部レビュー・ラウンド等の取り組み、院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた、委員会・会合、内部レビュー・ラウンド、症例検討会、院内研修	安全管理委員会、医療事故調査委員会、感染制御委員会、初任時研修、新人の看護師研修、診療所会議、内部レビュー・ラウンド
	2	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	医療安全講習会、医療事故防止研修会、感染管理セミナー、公衆衛生委員会、転倒防止対策研修会
設備コスト	3	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	警報装置、転落防止器具、衝撃吸収床材、浄水器、X線室防護壁
	4	感染制御に係る機器・設備等	感染を予防するための器材、機器、設備等	オートクレーブ、空気清浄機、ガウン、グローブ、ディスプレイ注射器、ハンドローション、消毒・洗浄剤、マスク、乾熱滅菌器、手洗い機器、超音波洗浄器、滅菌灯
	5	医療機器等、医薬品等の管理等の取り組み	臨床工学技士・薬剤師の活動状況(人数、活動内容の割合等)、医療機器・医薬品・血液製剤の安全管理に係る活動や設備利用の状況	①技士活動：院内巡回、酸素ボンベ点検、CT・MRI点検 ②医療機器管理設備：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器等の解析装置、被ばく線量バッジ ③薬剤師活動：特定生物由来製品または麻薬・劇薬等に係る保管・管理活動、医薬品使用期限の確認、救急薬更新 ④医薬品管理設備：血液製剤・ワクチン用の保冷库・冷凍庫、麻薬管理台帳、麻酔カート
その他	6	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル、注射針廃棄ボックス
	7	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	8	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	感染対策マニュアル、針刺し事故対策マニュアル、廃棄物適正処理マニュアル、品質マニュアル、緊急コールマニュアル、食中毒予防マニュアル
	9	外部評価の受審状況	受審した、医療安全・感染制御・医薬品安全使用関連する外部評価	ISO9001
	10	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	インフルエンザワクチン、HBワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
人員配置状況・活動状況	11	賠償責任保険への加入状況	病院(診療所)、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、医師賠償責任保険(医師会・民間損保)
	12	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理室長、リスクマネージャー、安全管理室員、安全管理推進室員
	13	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	①患者誤認防止、医薬品等の誤認防止、調剤の確認、手術部位誤認防止、入浴前後の状態確認、 ②手術、輸血・血液製剤投与、造影剤使用、心臓カテーテル、内視鏡手術、点滴、採血、麻薬投与、処方薬を渡す際
	14	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携(病病連携・病診連携・薬薬連携等)	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、主治医との意見交換、地域ケア会議、通所リハビリテーション連絡
	15	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1~14の分類に該当しないもの	警備体制の強化、配管の点検、医療用ガスボンベの点検、入院時の院内案内、防犯システム導入、細菌定点検査
	16	基本情報	患者、職員、収支などの状況	病床数、患者数、処方の状況、職員数、医業収支

(3) 歯科診療所の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合の取り組み状況、院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた、 ①委員会・会合 ②症例検討会、院内研修	① 安全管理委員会、医療事故調査委員会、感染防止対策委員会 ② 医療事故事例研修、感染防止対策研修、症例検討会、マニュアル遵守の確認、診療録・歯科衛生士業務記録等の記載を確認
	2	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	安全管理研修会、院内感染研修会、H I V 歯科医療研修会、救命・救急医療講習会、医療安全推進者養成講座
設備コスト	3	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	警報装置、階段すべり止め、転落防止器具、衝撃吸収床材、X線室防護壁、X線防護衣、血圧計、酸素ボンベ、粉塵バキューム、AED（自動体外式除細動器）
	4	感染制御に係る機器・設備等	感染防止対策のための器材、機器、設備等	消毒・洗浄剤、ハンドローション、グローブ、マスク、ゴーグル、ガウン、乾熱滅菌器、超音波洗浄器、抗菌床材、滅菌灯、高圧蒸気滅菌器（オートクレーブ）、強酸性水精製器、空気清浄機、手洗い機器、ディスポーザル注射器
	5	医療機器等、医薬品等の管理等の取り組み	医療機器・医薬品・血液製剤の安全管理に係る活動や設備利用の状況	① 活動：酸素ボンベの点検、救急薬の点検、医薬品の区分保管・使用期限の点検、X線の線量測定 ② 医療機器・医薬品管理設備：薬品保冷庫、麻酔カート
	6	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル
その他	7	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	8	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	医療事故対策マニュアル、感染防止対策マニュアル、廃棄物適正処理マニュアル、針刺し事故対策マニュアル、消毒・滅菌マニュアル
	9	外部評価の受審状況	受審した医療安全・感染制御・医薬品安全使用に関連する外部評価	ISO9001
	10	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	各種ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	11	賠償責任保険への加入状況	病院（診療所）、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、歯科医師賠償責任保険（医師会・民間損保）、個人情報漏洩保険
人員配置状況・活動状況	12	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理係、安全管理委員
	13	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	① 患者誤認防止、問診票による有病者・アレルギーの確認、医薬品等の誤認防止、手術部位誤認防止、医薬品調剤チェック ② 自己決定のための説明、注意事項の説明
	14	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携（病病連携・病診連携・薬薬連携等）	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、医科主治医との意見交換、医薬品についての情報確認、二次・三次医療機関との連携
	15	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1～14の分類に該当しないもの	患者相談窓口の設置、警備体制の強化、配管の点検、水質検査、防犯システム導入、細菌定点検査
	16	基本情報	患者、職員、収支などの状況	患者数、ユニット数、処方状況、職員数、医業収支、標榜する診療科目、歯科口腔外科の実施状況 等

(4) 保険薬局の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象	対象 (取り組み・機器) の例
人的投資コスト	1	安全管理に係る会議などの開催状況	安全管理に係る内容を取り上げた会議・委員会・打ち合わせ	安全対策を検討、決定する安全管理会議、事故調査委員会、安全管理についての定例会議
	2	安全管理に係る研修の取り組み状況	2004年度に職員が参加した、安全管理に係る全ての教育・研修	薬学大会、調剤薬局勉強会、保険薬局セミナー、薬剤安全管理室定例会議、調剤過誤防止委員会、医療安全管理者養成課程講習会
設備コスト	3	調剤業務における安全対策の実施状況	①調剤後鑑査の実施状況 ②散・水剤に関し、調剤ミス防止のため実施している対策 ③調剤に関する事故防止用に導入した機器	②分包誤差の確認、秤量メモとの突合、小児薬用量チェック ③散・水剤、各種薬剤（錠剤、注射薬、外用薬等）の調剤ミス防止に資するIT機器、患者の禁忌薬剤や過量処方等を確認するIT機器、自動分包機
	4	医薬品等の安全管理の取り組み状況	①規制医薬品の事故防止のための取り組み状況 ②受発注・納品時の取り間違い防止のための機器等	①安全管理が必要な薬剤のリスト化、区分保管、装置瓶や調剤棚への用法・用量記載、注意掲示
	5	副作用防止に関する取り組み状況	①安全性情報を収集・管理する体制 ②薬剤から患者を特定できる体制	①インターネット環境の整備 ②迅速な患者特定用のIT機器
	6	感染制御および無菌製剤に係る取り組み状況	①感染防止対策への取り組み ②クリーンベンチの整備状況 ③無菌製剤処理に係る物品	①使用済み注射針回収する旨の患者広報、感染性廃棄物の分別保管 ③グローブ、マスク、ゴーグル
その他	7	インシデントレポート取り組み状況	2004年度のインシデントレポート	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案
	8	マニュアルなどの作成状況	調剤業務全般に関して作成した、マニュアル・手順書・申し合わせ事項	事故防止マニュアル、小児薬用量リスト、薬剤保管管理マニュアル、院内採用医薬品集、
	9	外部評価の受審状況	新規で受審または更新した、外部評価	ISO9001、BS7799等による認定・監査
	10	職業感染防止対策の取り組み状況	職業感染防止のための対策	各種ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	11	賠償責任保険への加入状況	薬局、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	薬剤師賠償責任保険
人員配置状況・活動状況	12	安全管理に係る人員配置状況	管理薬剤師および安全管理に係る責任者、担当者	管理薬剤師、安全管理責任者、リスクマネージャー、安全管理担当者、安全管理推進者
	13	服薬に関する安全管理の取り組み状況	①機能連携（疑義紹介含む）の取り組み ②事故防止に向けた患者対応 ③服薬管理が必要な薬剤についての指導 ④在宅自己注射に係る安全対策	①医療機関への疑義照会 ②緊急時の電話対応、持参薬鑑定、処方内容確認 ③薬歴等を用いた管理指導 ④用法・用量等の服薬指導、保管管理
	14	安全に係るその他の活動の取り組み状況	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、項目1～13の分類に該当しないもの	警備体制の強化、医療用ガスボンベの点検、クリーンシステムの導入、錠剤計数監査システムの研究開発
	15	基本情報	処方、職員、収支などの状況	処方せん枚数、受付回数、職員数、営業収支

3. 取り組みの状況

医療安全に関する取り組みの具体例をあげ、各調査対象の取り組み状況を一覧に整理した。

なお、ここで挙げる取り組み状況は、書面調査の中で各施設から「取り組んでいる」との情報を得たものに限るものである。（したがって、書面調査への回答はなかったが取り組んでいる場合もありうる。）また、取り組んでいるとの回答があってもコストが不詳の場合には、表中に○を付けているが、後掲のコストには計上されていない。

(1) 病院（300床未満）の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	病院（300床未満）					
		A	B	C	D	E	F
1 委員会・会合	安全管理委員会	○	○	○	○	○	○
	感染制御委員会	○	○	○	○	○	○
	事故調査委員会	—	○	○	○	—	—
	薬事委員会	○	○	○	○	○	○
	その他の委員会	○	○	○	○	○	—
2 内部レビュー	院内視察・査察	—	—	—	—	○	○
	マニュアル遵守	○	○	○	○	—	—
	診療録レビュー	—	—	—	○	—	—
	各種検討会（化学療法、 輸血、抗生剤）	○	○	○	○	—	—
3 院内研修	安全管理研修	—	○	○	○	○	○
	感染制御研修	—	○	○	○	○	○
	救急救命研修	—	○	—	○	○	—
	新人看護職研修	—	○	—	○	—	—
4 院外研修	安全管理研修	○	○	○	○	○	○
	感染制御研修	○	○	○	○	○	○
	救命・除細動機講習	—	○	—	○	—	—
5 安全管理機器・設備	リストバンド	○	○	—	○	○	○
	転倒防止器具	○	○	○	—	○	○
	警報装置	—	○	○	—	—	○
	看護支援携帯端末	—	○	○	—	—	—
	オーガーエントリーシステム	—	○	—	○	—	—
	AED	—	○	—	—	—	—
6 感染制御機器・設備	消毒・洗浄剤	○	○	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○
	抗菌カテーテル	○	—	○	—	—	—
	針刺防止器具	○	○	—	—	—	○
	オートクレーブ	○	○	○	○	○	—
	空気洗浄器	—	—	○	—	○	—
	手洗い機器	○	○	○	○	○	—
陰圧隔離室	—	—	—	—	—	—	

調査項目	取り組み内容	病院（300床未満）						
		A	B	C	D	E	F	
7	医療機器の管理	臨床工学技士配置	—	○	—	○	—	
		ME 機器定期点検	—	○	—	○	○	○
8	医薬品の管理	薬剤師の服薬指導	○	○	○	○	○	○
		薬剤師の注射剤調製	—	○	—	○	○	—
		グリーンベンチ・安全キャビネット	—	—	—	○	—	—
		冷蔵保管庫	○	○	○	○	○	○
		自動分包機	○	○	—	○	○	○
		医薬品管理システム	—	—	○	—	—	—
9	廃棄物処理	感染性器具廃棄容器	○	○	○	—	—	○
		感染性廃棄物保管庫	○	—	○	○	○	—
		感染性廃棄物処理施設	—	—	—	—	—	—
		感染性廃棄物処理委託	○	○	—	○	○	○
		産業廃棄物保管庫	○	○	○	○	○	○
		産業廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○
10	インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	○	○	○	○	○
		アクシデントレポート	○	○	○	○	○	—
		分析・改善立案	○	○	○	○	○	○
11	マニュアル	感染制御マニュアル	○	○	○	○	○	○
		事故防止マニュアル	○	○	○	○	○	○
12	外部評価	病院機能評価	○	○	○	○	○	○
		ISO9001	—	—	—	—	—	—
13	院内感染サーベイランス	MRSA	—	○	—	○	—	○
		疥癬	—	○	—		—	—
		術後感染	○	—	—		—	○
		手術スタッフ手指細菌検査	—	—	—	○	—	—
		手洗滅菌水細菌検査	—	—	—	○	—	—
		手術台細菌培養	○	—	—	—	—	—
		人工呼吸器関連肺炎	—	—	—	—	—	—
		手洗い評価	—	—	○	—	—	—
14	職業感染防止	抗体検査	○	○	○	○	○	○
		インフルエンザワクチン	○	○	○	○	○	○
15	賠償責任保険	病院が被保険者	○	○	○	○	○	○
		従業員が被保険者	○	—	○	○	—	—
16	安全管理人員配置	専任リスクマネージャー	—	○	—	—	—	—
		兼任リスクマネージャー	—	○	—	○	—	○
		施設管理者が兼任	○	—	○	—	○	—
17	感染制御人員配置	感染担当マネージャー	—	○	—	—	—	—
		リンクナース	—	—	—	—	—	—
		施設管理者が兼任	○	—	○	○	○	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(2) 一般診療所（有床）の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	一般診療所（有床）			
		A	B	C	D
1 委員会・会合・院内研修	安全管理委員会	○	○	○	○
	感染防止対策委員会	○	○	○	○
	新人看護師の研修	○	○	○	—
	初任時研修・オリエンテーション	○	○	○	—
	内部レビュー・ラウンド	○	—	—	—
2 院外研修	安全管理研修	—	○	—	○
	感染制御研修	—	○	—	—
	その他の研修	—	○	—	—
3 安全管理機器・設備	看護支援端末	○	—	—	—
	警報装置	○	○	○	—
	転落防止器具	○	—	—	—
	衝撃吸収材	○	—	—	—
	テレビ監視装置	○	—	—	—
	手術用モニター	○	—	—	—
	手すり	—	○	—	—
4 感染制御機器・設備	消毒・洗剤	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○
	抗菌カテーテル	○	—	○	○
	抗菌床材	○	—	○	—
	陰圧隔離室	—	—	—	—
	オートクレーブ	○	○	○	—
	空気清浄機	—	○	—	—
5 医療機器、医薬品等の管理等	X線機器検査	—	○	—	—
	医薬品の管理・保守	○	○	—	—
6 廃棄物処理	廃棄物保管庫	—	○	—	—
	感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○
	非感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○
7 インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	○	○	○
	アクシデントレポート	○	—	○	—
	分析・改善立案	○	○	○	○
8 マニュアル	感染・消毒マニュアル	—	○	—	○
	事故防止マニュアル	—	○	—	○
	その他のマニュアル	○	—	—	—
9 外部評価	ISO9001	—	—	—	—
10 職業感染防止	抗体検査	—	○	○	○
	インフルエンザワクチン	○	○	○	—
	その他検査	—	○	—	—
11 賠償責任保険	医療機関が被保険者	○	○	○	○
	従業員が被保険者	—	—	○	—
12 安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	—	○	—	○
	施設長が兼任	○	—	○	—

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(3) 一般診療所（無床）の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	一般診療所（無床）					
		A	B	C	D	E	F
1 委員会・会合・院内研修	安全管理委員会	—	—	—	—	—	—
	感染防止対策委員会	—	—	—	—	—	—
	新人看護師の研修	—	—	—	—	—	○
	その他の会合・院内研修	○	—	—	○	○	○
2 院外研修	安全管理研修	—	○	—	○	—	○
	感染制御研修	—	○	○	—	○	—
	その他の研修	—	○	—	○	○	○
3 安全管理機器・設備	看護支援端末	—	—	—	—	—	—
	警報装置	—	—	—	—	—	○
	救急薬セット	—	—	○	—	—	—
	酸素ボンベと吸入マスク	—	—	○	—	—	—
4 感染制御機器・設備	消毒・洗剤	○	○	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○
	オートクレーブ	○	○	○	○	○	○
	空気清浄機	—	○	—	○	○	○
	滅菌灯（白癬菌用）	—	○	—	—	—	○
	その他機器	—	○	○	—	○	—
5 医療機器、医薬品等の管理等	X線機器検査	—	○	—	—	—	—
	医薬品の管理・保守	—	—	○	○	—	—
	麻酔カート	—	—	—	—	○	—
6 廃棄物処理	感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○
	非感染性廃棄物処理委託	○	○	—	○	—	○
7 インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	—	—	—	○	○	—
	アクシデントレポート	—	—	—	—	—	—
	分析・改善立案	—	—	—	○	○	—
8 マニュアル	感染・消毒マニュアル	—	—	—	○	○	—
	事故防止マニュアル	—	—	—	—	—	—
	その他のマニュアル	—	—	—	○	○	—
9 外部評価	ISO9001	—	—	—	—	○	—
10 職業感染防止	抗体検査	—	○	—	—	○	—
	インフルエンザワクチン	○	○	○	○	○	○
	その他検査	—	—	—	○	○	—
11 賠償責任保険	医療機関が被保険者	○	—	○	○	○	○
	従業員が被保険者	—	○	—	—	○	○
12 安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	—	—	—	○	—	—
	施設長が兼任	○	○	○	—	○	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(4) 歯科診療所の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	歯科診療所							
		A	B	C	D	E	F	G	
1	委員会・会 合・院内研修	安全管理委員会	○	○	○	—	○	○	—
		感染防止対策委員会	○	○	○	○	○	○	—
		医療事故調査委員会	○	○	—	○	—	○	—
2	院外研修	安全管理研修	○	—	—	—	—	○	—
		感染制御研修	—	○	○	—	○	—	—
3	安全管理機 器・設備	モニター(酸素飽和度)	○	○	—	—	—	○	○
		血圧計	○	○	○	○	○	○	○
		救急薬セット	○	○	○	○	○	○	○
		エアウェイ	○	○	○	○	○	○	○
		人工呼吸用バッグ・マスク	○	○	○	—	—	○	—
		酸素ボンベと吸入マスク	○	○	○	○	○	○	○
		AED	○	—	—	—	—	—	—
		粉塵バキューム	—	○	—	○	○	—	○
		浄水器	○	○	—	—	—	○	○
心電計	○	—	—	—	—	○	—		
4	感染制御機 器・設備	消毒・洗浄剤	○	○	○	○	○	○	○
		グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○	○
		乾熱滅菌器	○	○	○	○	—	—	—
		その他滅菌器	○	○	○	○	○	○	○
		超音波洗浄器	—	○	○	○	○	○	○
抗菌床材	—	—	—	○	—	—	—		
5	医療機器、医 薬品等の管 理等	ユニット保守点検	—	○	—	—	○	○	○
		X線量測定	○	○	—	—	—	○	—
		医薬品の管理・保守	○	○	—	○	○	○	○
		薬品保冷庫	○	—	—	—	—	○	—
麻酔カート	○	—	—	—	—	—	—		
6	廃棄物処理	廃棄物保管庫	○	○	—	—	—	○	○
		感染性廃棄物処理委託	○	—	○	○	○	○	○
		その他廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○	○
7	インシデン ト・アクシデン トレポート	インシデントレポート	○	○	○	—	—	○	—
		アクシデントレポート	○	—	○	—	—	○	—
		分析・改善立案	○	○	○	—	—	○	—
8	マニュアル	感染・消毒マニュアル	○	—	○	○	○	○	—
		事故防止マニュアル	—	—	○	—	—	○	—
		診療マニュアル	○	○	—	—	—	○	—
		その他のマニュアル	—	○	—	—	○	○	—
9	外部評価	ISO9001	—	○	—	—	—	—	
10	職業感染防 止	抗体検査	○	○	○	○	○	○	○
		インフルエンザワクチン	○	○	—	○	—	○	○
11	賠償責任保 険	医療機関が被保険者	○	○	○	○	○	○	○
		従業員が被保険者	—	—	—	○	—	○	—
12	安全管理 人員配置	安全管理責任者等任命	○	○	—	—	—	○	—
		施設長が兼任	—	—	○	○	○	—	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(5) 保険薬局の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	保険薬局									
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1 委員会・会合・打合せ	安全対策委員会	—	—	○	○	—	—	○	—	○	—
	製薬会社 MR を招いての研修会	○	○	○	—	○	○	○	—	—	○
	その他の会合・打合せ	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
2 研修	内部研修	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—
	外部研修・学会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 調剤業務における安全対策	鑑査機器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	薬歴管理システム	○	○	○	—	○	—	—	○	○	○
	その他の機器	○	○	○	○	—	○	—	○	○	○
4 医薬品等の安全管理	規制医薬品のリスト化	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	規制医薬品の区分保管	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	装置瓶、調剤棚への用法等の記載	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	薬剤の注意掲示	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	薬剤の注意扉等への確認	○	—	—	○	○	○	○	○	—	—
	医薬品の検収	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 副作用防止	受発注に用いる機器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報収集・管理体制整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 感染制御および無菌製剤	患者特定の仕組みの整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	使用済み注射針についての患者への広報	—	—	○	—	○	—	○	○	○	○
7 インシデント・アクシデントレポート	感染性廃棄物分別保管	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○
	感染性廃棄物処理委託	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
	クリーンベンチ	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—
	分析・改善立案	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
8 マニュアル	インシデントレポート	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	事故防止マニュアル	—	—	—	—	—	○	—	○	○	—
	機器操作マニュアル	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	その他のマニュアル	—	—	—	○	—	—	○	○	○	—
9 外部評価	ISO9001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10 職業感染防止	抗体検査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	インフルエンザワクチン	—	—	○	—	○	—	—	○	○	○
	その他検査	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—
11 賠償責任保険	薬局が被保険者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	従業員が被保険者	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○
12 安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	—	—	○	○	—	—	—	—	○	—
	施設長が兼任	○	○	—	—	○	○	○	○	—	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

4. 調査結果の考察と今後の課題

○今回の調査は、医療安全に係るコストを把握するための調査手法の開発を意図したものである。調査対象施設は先進的な取り組みを行っている医療機関等であり、対象施設数が限られているため、この結果は全国の傾向を代表するものではない。また、把握したコストについても調査で規定した内容に限られていることに留意する必要がある。今後、医療安全に関するコストについて政策に活用できるデータを得るためには、本調査結果を基礎として、さらなる調査を実施することが望まれる。

○一般的に、医療安全に係る取り組み内容は、医療機関等の特性などによって異なる傾向がうかがえた。例えば、施設の種類や規模、扱う診療科目、外科的処置の実施の有無、院外処方の実施状況などにより取り組みが異なる傾向があり、それがコストに反映されていると考えられる。

○このため、調査対象を決める際に、医療機関等の特性などを勘案して区分する必要があるとあり、調査対象の区分、並びに各区分における標本数の規模について今後検討する必要があると考えられる。

<今後の課題>

○調査対象の項目や範囲の検討

医療安全に関するコストについては、対象とする取り組み（各種確認作業や患者等に対する説明と同意などの活動や必要とされる物品等）の項目や範囲を明確にすることが難しい。そのため、今回の調査においては、取り組み内容を具体的に回答してもらう等、詳細な調査が必要になった。また、一部の取り組みについては、実施の有無を把握するのみでコストの把握に至らないものがあった。調査対象の項目や範囲についてはさらなる検討が必要と考えられる。

○IT 機器や外部評価等に関するコストの把握

IT 機器や外部評価に関しては、費用負担が大きく、現在は施設によって導入状況に格差があり、特に、IT 機器については医療安全に係るコストの把握が難しいため、今回の調査ではそのコストは別掲とした。また、医療安全等に関するマニュアル作成等のコストについても、作成・更新を繰り返しているため年間費用としての把握が困難であった。これらの取り組みの医療安全に係るコストをどのように算出するかについて今後検討する必要がある。

○人的コストの算出方法

今回の調査では、人的コストについて国家公務員の給与単価を適用したが、民間医療施設等における給与水準は異なると考えられることから、より適切な人件費の把握方法の検討が必要になると考えられる。

○規模の違いとコストとの関連

今回の調査では、規模による違いを調整するためにコストの医業収入割合を算出し、施設の種類ごとに平均値を求めた。また、病院と有床診療所では1病床1日当たりの費用、無床診療所と歯科診療所では患者1人1回当たりの費用、保険薬局では処方せん1枚当たりの費用を算出したが、例えば、病院では、外来の規模、外科的処置の規模、院外処方の実施規模などによりコストが異なってくることに留意する必要がある。

○効果計測の手法

医療安全に係るコストの把握については、取り組みに対する効果の把握と評価が必要となるが、効果計測の手法は確立されていない。医療安全対策に資する効果計測手法（クリニカルインディケーター等）は、国を中心として各種の研究が進められており、今後の研究成果が待たれるところである。今回の調査では、取り組みによる効果を把握することができなかったが、それを測定する指標についても今後検討していくことが求められる。